

令和4年3月15日

那須烏山市議会議長 渋井由放 様

J R 烏山線利用促進等特別委員会委員長 高田悦男

### 所管事務調査結果報告書

平成30年第3回6月定例会において本委員会が申し出を行った閉会中の継続調査の結果について、那須烏山市議会会議規則（平成17年10月那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により、次のとおり報告します。

1 調査期間 平成30年6月11日から令和4年3月15日まで

2 構成委員 高田悦男、荒井浩二、青木敏久、堀江清一、滝口貴史、相馬正典、  
田島信二

3 調査事項

- (1) J R 烏山線利用促進及び公共交通に関する事項
- (2) その他特に必要と認めた事項

4 調査結果

- ・本委員会では、本市の重要な地域資源である J R 烏山線を存続させ、地域を盛り上げる一助とすべく、また、全国でも数少ない蓄電池駆動電車である ACCUM を、観光振興及び地域活性化に結びつけていけるよう、利用促進に関する調査研究を行うとともに、高齢者世帯等、自家用車を利用することが困難な交通弱者が増加している現状に鑑み、市内の公共交通機関全般に関する調査研究を行った。
- ・平成30年及び令和元年の山あげ祭開催期間中に運行された J R 烏山線臨時列車及び令和元年に運行されたリゾートぶなからすやまを利用した観光客に対して市議会議員及び市職員や関係者が集まり、横断幕を掲げるといったお出迎えを行った。
- ・ J R 烏山線をはじめとする地方交通線の多くは、沿線人口の減少や道路交通網の発達から利用者数が減少している。近年は新型コロナウイルス感染症による外出自粛のため利用者数が減少し、また、感染拡大防止のために企画列車の運行やイベント等の開催が困難な状況である。ついては、本委員会で J R 烏山線の存続及び利用客数増加に向けた検討を行い、利用客数の減少を食い止めるには、車内に設置可能なものも含め、 S u i c a 改札機を導入し乗客への利便性を向上させることが欠かせないという結論に至った。今後も J R 東日本に対し J R 烏山線の存続に向けた取組を図っていくと

もに、引き続きS u i c a改札機の設置に向けた要望活動を続けていく必要がある。

## 原文（議会だより委員会報告 前任期所管事務調査報告書）

[R01] 山あげ祭に臨む市内の熱気が、迫り来る台風6号にも影響を及ぼしたのか、接近した低気圧の渦は雲散霧消し、3日間にわたる山あげ祭は天候にも恵まれ華やかな賑わいを見せました。

7月27、28日にJR烏山線「臨時列車」のお出迎えが、終点烏山駅前にて例年通り実施されました。市議会議員及び市職員や関係者が集まり、当番町の鍛冶町や、JR烏山駅のある地元金井町の若衆も連日屋台を率いて、訪れた乗客の皆様の到着をお囃子独特の節回しで盛り上げていました。写真撮影などにも応じるなどして、観光にいらした方々が山あげ祭見学に期待とともに足を運んでいく姿がみられました。

今年は初めて烏山駅の発車予告メロディに山あげ祭の定番曲であるお囃子が7月の期間限定で採用され、夏のお祭りムードを盛り上げることでJR烏山線と山あげ祭の周知と活性化が図られました。

[H30] 例年になく暑い日がつづいた7月の28、29の両日、JR烏山線を利用して山あげ祭にお越しいただいたお客様を歓迎する「お出迎え」のため、烏山駅前に市議会議員の他、やまどんも集合。11時42分着の「アキュム」が満員の乗客を乗せて到着。出席議員とやまどんが横断幕を掲げてお客様と記念写真に納まるなど賑やかな「お出迎え」となりました。

今年は川俣市長の提案によりSuicaが利用できない烏山駅において西瓜（すいか）でお客様をおもてなしすることになりました。市長を先頭に議員、職員が一人分ずつカップに入れた西瓜をお客様にお配りしましたが、暑い中、冷えた西瓜が好評でした。

烏山駅へのSuica導入については、JR烏山線利用促進等特別委員会としてJR東日本に要望活動を続けていきます。

### [H30所管事務調査]

本委員会では、JR烏山線の存続と更なる利用促進を目的とした事業に関し、調査研究を行った。JR烏山線利用促進対策の一環として実施されている那須烏山市民号について、所管課であるまちづくり課と意見交換を開催した。市民号をJR烏山線の利用促進につなげるため、また、市民号の参加者数を伸ばし、同時に参加者に満足していただくための方策について意見を出し合った。

調査研究を行うのみならず、JR烏山線とこれを取り巻く地域を盛り上げる一助とすべく、毎年、山あげ祭開催期間に烏山駅前で、JR烏山線を利用した観光客のお出迎えを、全議員に呼びかけて行った。また、平成29年3月3日に行われた気動車「キハ40形」の引退イベントにも参加し、38年の長きにわたり愛されてきた「キハ40形」を市民や鉄道ファンとともに見送った。JR烏山線を利用した各種企画は盛況に行われてきたが、市民や観光客の利用向上につながる効果的な対策や、地域の人々に愛着を持ってもらえるような路線とするための取り組みが必要である。

現在、運行する「アキュム」は、全国でも数少ない蓄電池を活用した電車であり、利用促進の目玉になり得る要素である。これらを含むJR烏山線の魅力を、観光振興及び地域活性化に結び付けていけるように望むものである。

#### [H26 所管事務調査]

本特別委員会では、各地の先進事例を視察し地方のローカル線の現状と対策についての調査研究を行った。多くのローカル線は、利用客の減少を食い止める対策が最大の課題となっている。そのために、企画列車の運行やイベントの開催など、いかに話題性のある取り組みをし利用してもらうか知恵を絞った事業がなされていた。また、地域の人々に愛着を持ってもらえるような路線であるような取り組みがみられた。当市でも烏山線を利用した企画は行っているが、観光客はもとより市民が多く利用するような効果的な対策が必要である。

また、烏山線の利用向上対策についての調査研究を行うのみにとどまらず、山あげ祭の際に烏山駅前を利用客のお出迎えを行い、市民号については企画運営の段階から参加するなど、市と一体となった利用向上の推進に取り組んだ。

明日から待ち望んでいた蓄電池駆動電車「アキュム」が運行され、烏山線の利用向上には、またとないチャンスであり、観光振興及び地域活性化に繋げていけるように望むものである。